

平成28年度

今治市PTA連合会研修大会が開かれる



平成二十八年一月三十一日(日)今治市PTA連合会研修大会が、波方公民館で開催されました。初めに主催者を代表して今治市PTA連合会会長 長田中健司が開会の挨拶をし、来賓の今治市教育委員会教育長 高橋実樹様、愛媛県PTA連合会会長 村上一郎様からご祝辞を頂きました。それから、今年度愛媛県教育委員会教育長・愛媛県PTA連合会会長の連名表彰、今治市PTA功労者表彰などがありました。受賞者の皆様おめでとうございます。続いて、キツサコのライブトークが行われました。キツサコは、今治市出身の僧侶でもある薬師寺寛邦(やくしじかんほう)さん、京都市出身の山元サトシ(やまもとさとし)さんの、フォークボーカルデュオです。薬師寺さんは、仏門修行のため、二〇一〇年活動を一時休止していました。二〇一三年に活動を再開され、同時に故郷の未来を考えるチャリティプロジェクト(ふるまも)を立ち上げられました。昨年十二月には、四枚目のフルアルバム『縁』を発売され、お寺ライブを活動の軸として全国各地に積極的に活動されています。優しく強く広がるハーモニーが、

輝くひとみ

第20号

平成28年3月15日発行
今治市PTA連合会
ホームページアドレス
<http://www.imabarity-pta.jp>

心のどこかで置き去りになったあなたの大切なものを思い出させてくれるような、本当に素晴らしい歌声でした。続いて、講師 吉武博文(よしただひろふみ)先生の講演が行われました。吉武先生は、一九六〇年、大分県生まれ、大分上野丘高から大分大卒業後、教師になって、一九八五年大分市立明野中サッカー部を全国大会優勝に導きました。二〇〇〇年から、盲学校に勤務しながらクラブのコーチを務め、二〇〇二年日本サッカー協会トレセンコーチ九州担当に就任。二〇〇五年に教師を辞めてコーチ業に専念し、二〇〇九年から二〇一四年までU-15日本代表監督に就任されてきました。現在は、FC今治のメソッド事業本部長として岡田メソッドの構築に取り組んでおられます。「子供達が夢や希望を持てる社会を目指して」と題してお話しくださいました。誰にも夢があり、それはたとえ小さくとも、その夢はやがてふくらみ、花と咲く。いつまでも、少年のような心を持ち続けていたいと感じたお話でした。講演時間は、予定時間を上回る本当に素晴らしい心温まる講演でした。



会長あいさつ



今治市PTA連合会会長
田中 健司

中学三年生にとっては義務教育最後の年、それぞれの夢に向かっていよいよ飛び立つ時がやってきました。私は縁あって二回目の連合会長をさせて頂いた。本年が連合会役員十七年目、最後の年になりました。本年度は今治市PTA連合会から二つのメッセージを、会議や研修会、会合等の場で、同じ事を何度も発信させて頂きました。

一つは「相手を思いやる気持ちを大人も子どもも持つ」、二つ目は「大人たちがしゃんとする」です。この二つがPTA役員として経験してきた私の集大成の想いでありました。

また本年度は、市PTA連合会の既存事業の他に次の三つのことを実行しました。

五年前、私が市PTA連合会長をさせていただいた年に3.11の東日本大地震が起こりました。今年度は来るかもしれない南海地震・東南海地震に備え、五年目に入った今治市防災教育推進連絡協議会(今治市・警察・消防・防災士会・自衛隊等で組織)で、市PTA連合会として各校にその地に合った実効性のある連携行

動を促しました。

道路法改正による自転車マナーの違反者への厳罰化を受け、悲惨な事故が起きないよう啓蒙活動に努め、また、高校一年生入学時のヘルメット購入の予算の継続化を愛媛県PTA連合会を通じ要望しました。

そして、四国で唯一、市PTA連合会として取り組んでいる青パト隊(今治ことも安心パトロール隊)の防犯活動と報告や設立経緯説明を、東予地区児童生徒を見守る会や市PTA連合会会長会で実施しました。

すべては、子どもたちのために、連合会役員と共に懸命に行動をいたしました。保護者、教員の皆様方に充分伝わったかどうかは、それを願うばかりです。

日々、課題を持って物事に臨むこと、それは人間を必ず成長させると信じています。四月からは、皆さんそれぞれの道や目標に向かって進んでいくことと思います。初志貫徹、怯むことなく、生きていくことの喜びを感じ、自分のやるべきことを明確にして頑張っていたきたいと願っています。



ある小学校校長室前に掲示してあった印象深い一枚

第四十四回 四国ブロック PTA研究 香川大会

平成二十七年十月十一日（日）、第四十四回日本PTA四国ブロック研究大会香川大会が「子どもの声を聴こう！みんなで考える子どもの未来」という大会スローガンのもと丸亀市綾歌総合文化会館アイレックス大ホールで開催されました。

はじめに開会行事、表彰行事が行われた後、実践発表として「食を通じた子育て」をテーマとして、各県のPTAが「食べること」を通して子どもと一緒に学び合い成長し合うPTAをめざして、食育を通じて新たな発見！、「馬路式お弁当の日」を通して自立した子どもの育成、PTAと学校が協働したPTA活動、「たのべん」の歩み、というタイトルで実践の報告がありました。各校が実際に行っている事業内容を直接聞く事ができたので、大変参考になりました。

また、午後からの基調講演では助産師・思春期保健相談士の内田美智子氏が「奇跡のいのちをつないでいく子どもたち」というテーマで子育てについて様々な角度からお話され、気づかされることの多い感動的な講演となりました。



男氏との対談が行われ、色々と考えさせられることの多い有意義なお話を聞くことができました。

この四国ブロック研究大会は毎年開催されている行事です。四国各地で開催されるため、時間的にも金銭的にも負担はありますが、参加した後は毎年、よかったですと思える充実した内容です。是非皆様も一度はご参加してみたいかがでしょうか？

第61回愛媛県 PTA大会

平成二十七年十一月八日（日）、第六十一回愛媛県PTA大会が西条市総合体育館で行われました。

はじめに県内PTA活動関係の表彰が行われ、今治市では優良PTAとして立花小学校と伯方小学校が、PTA功労者として今治市PTA連合会の河上貴之さん、渡邊仁さん、越智由香さんが受賞となりました。



表彰式後に道前太鼓しABANTA、田滝お籠踊り、三芳祝太鼓保存会による力強い演奏、演舞の披露があり、会場を盛り上げてくれました。



次に「有害情報から子どもたちを守るPTA活動の取組」として実践発表が行われ、各PTA連合会の取組状況について発表がありました。主にスマートフォンをはじめとするネット通信機能付き端末の使用についてPTAと自治体との協力でルールやマニュアルの策定状況が発表されました。

とSNS時代で「賢くネットに対応できる子」を育てるには」と題した講演が行われました。

ネットも段階を経て使用させる、例えば、自転車に乗る練習をしていく様に基本から高度なものへ慣れていくことも大切であり、そうして危険行為を認識して有効な活用をして欲しいと述べられました。また、昨今問題となっている「ネット依存症」に関わることで、児童生徒の長時間使用と学力低下の関係についての統計も表示されました。ネットを全く利用しない児童生徒と適度に利用している児童生徒と長時間利用している児童生徒では、適度に利用している児童生徒が学力が高い結果となっていました。適度に制限を認識して利用するということは元々自己規制能力があり、生活リズムが安定しているということから繋がっているようです。そういった要因は家庭内環境や家庭内ネットワーク利用ルールづくりなどで協力できることではないでしょうか。

また、自治体の協力として学校でのネット利用に関する統一ルールを定めた成功例もあります。内容としては厳格に規制するものではなく、ある程度の柔軟性のあるものです。厳格に規制しすぎると児童生徒は他の「遊び」に向かう、例えば「9時以降はネットは厳禁」としてしまうと、その時間から一転して漫画を読んだりテレビを見たり、結局勉強はしないといった傾向があります。また、時代も絶えず高度に変化するためにその技術進化に対応した統一ルールとして毎年改正の検討を行うことも大切であると思います。

今後ますますコンピューター関連技術は発達をしていくと考えられます。喜ばしいことですが、反面危険な面も多々あり、それを扱う、または扱わざるをえなくなっている保護者、児童生徒は自動車の運転を行う責任をもつぐらいの気持ちで対応すべきと感じられました。

各家庭内のネット利用環境を再確認して、教育委員会、各学校、PTAを通じて、スマホをはじめとするネット端末使用に関する各家庭内のルールづくりを今一度考えてみてはいかがでしょうか。



平成28年度

今治市PTA 連合会 情報交換会

平成二十七年十一月二十九日(日)、平成二十七年今治市PTA連合会情報交換会が波方公民館で行われました。今回の情報交換会のテーマは『人に対する思いやりを考える場』で、三部構成で行われました。

まず、今治市立日吉中学校教頭、門岡達也先生の指導の下、今治市立南中学校剣道部の基本稽古や模範試合などの実演がありました。

礼に始まり、礼に終わり、厳かな雰囲気で行われました。剣道では面を一本取っても、ガッツポーズをすると取り消されます。それは相手の気持ちを考えて、自分の気持ちを自制させるということです。

次に今治地区剣道連盟会長・剣道教士七段の山本省三先生に『剣道で培う「思いやり」の心』を考える』と題して講演をしていただきました。お話の中で先生は『スポーツは楽しむことが本来の目的、剣道は修行であり、人間形成が目的』とおっしゃっていました。普段、剣道に携わっていない方も、いつもと違った角度から人に対する思いやりを考える貴重な場となったのではないのでしょうか。

最後に各校のPTA代表者が集まり、『学校と地域・PTAと地域』というテーマで意見交換や発表を行いました。

急速に普及してきた携帯電話などの取り扱いについても話し合いました。普段の生活において、言葉を発する前、行動する前にまず相手のことを考える、思いやることの大切さを改めて考える会になったと思います。

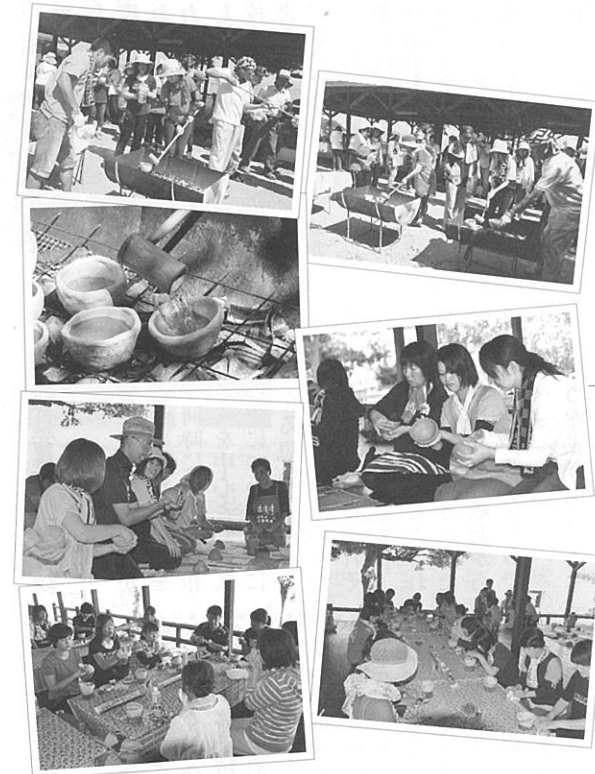
多くのPTAの方に参加いただき、ありがとうございます。



研修会(三区)

平成二十七年八月二十三日(日)三区研修会が伯方町沖浦ビーチにて開催されました。講師として地元の山岡和孝さん、西部知香さんを代表とする「土器で塩づくりの会」の皆様方をお迎えし、島嶼部PTA約三十名参加により製塩土器づくり・塩づくりを体験させていただきました。

土器に海水を注いでから木炭などで火を焼き蒸発させるといったシンプルな縄文時代の手法で精製できるという貴重な体験をさせていただきました。また、その時に使用する土器の作成も行いました。粘土から器具を使用せずに手使つ



て器の形にしていづく作業に参加者は慣れない手つきながらも懸命に取り組みました。塩が出来上がると、その塩を野菜などにふりかけて試食も行いました。単純ではありますが、普段より塩の旨味がよく感じられました。

古来の手法として普段ではまず体験できないこともあり各学校の児童生徒もできるとなればぜひ参加していただきたいと感じました。実際にこの体験は、予約により参加することができません。(当日は他の家族参加者もいました。)興味のある方は、ぜひ親子で参加してみたいかがでしょうか。

学習交流会(三区)

平成二十七年六月二十七日(土)、講師にJFAアカデミー今治の影山啓自チーフコーチを迎え、『世界に羽ばたく子どもたちの育成に向けて』のお話がありました。

アカデミーの子どもたちは、ハードな日々の中、ここ朝倉から大きな夢、はつきりとしたビジョンをもち、家族や多くの人に支えられ突き進んでいることを実感しました。その教えの中で、『失敗日本一になれ』という言葉がありました。世界で活躍するなどでこの選手も、アカデミーなどで数々の失敗を繰り返してきたので、その姿を身近に感じられる環境にあるということとは、子どもたちだけでなく私たち大人にとってもよい出会いだと思っております。与え与えられ、ともに育み成長し、朝倉から世界に羽ばたきますように！



広報紙コンクール

平成二十八年二月十三日(土)、今治市中央公民館において、第十一回広報紙コンクールを開催しました。小学校二十一校、中学校十一校の応募がありました。

各学校、特別審査員、市P連本部役員・広報公聴部員の採点を総合的に審査した結果、次のとおり受賞校が決まりました。

各賞を受賞された学校の皆様、おめでとうございます。

なお、最優秀賞、優秀賞の六校の広報紙は、県PTAのコンクールに応募します。表彰は、本年五月の市PTA総会にて行います。

受賞校の皆様おめでとうございます!

- ◇作品賞
 - ☆最優秀賞
 - 小学校の部 吹揚小学校
 - 中学校の部 日吉中学校
 - ☆優秀賞
 - 小学校の部 常盤小学校
 - 中学校の部 桜井中学校
 - ◇特別審査員賞
 - 亀岡小学校
 - ◇今治市PTA連合会長賞
 - 立花小学校
 - ◇ミニコミ賞
 - 小学校の部 日高小学校
 - 中学校の部 大島中学校
- ※今治市PTA連合会のホームページにも掲載しておりますので、ご覧ください。以下に、特別審査員の方々のご講評を掲載させていただきますので、今後の広報紙作りの参考にしてください。
- http://www.imabaricity-pta.jp/ 今治市PTA連合会 検索
- 名前:今治市PTA連合会 ユーザー名:imabari_pta

第11回 広報紙コンクール 特別審査員 講評

愛媛新聞社 今治支社編集部長 宮野 雄

今回四回目の審査。年々全体的にレベルアップして読み応えがある内容になってきています。

審査ポイント一点目、読みやすさ。全体の編集・見出し・レイアウト、各校とも大きな差はないように感じました。が、全体的な傾向として、見出しがちよっと弱い。良く広報紙に出てくる「運動会」やPTA活動の「家庭教育学級」は、単語で見出しではない。何があったのかを、簡潔に記すのが見出し。運動会なら、「全校児童〇〇人 走った!投げた!叫んだ!」家庭教育学級なら、「簡単に、美味しい料理、つくりました」といったように何をやったのかを伝える(わかる)のが見出し。新聞一面の見出しが、「〇〇△△調査」という単語だけで、後全部記事だったとしたら、記事を読まないし何のことも書いていないのかわからない。

「〇〇△△調査 全面中止」※△に反発」という見出しがあると、書いている内容が大体わかり、それを頭に入れて読み進めると、記事の内容が頭に入る。そういう効果があるのが見出しになります。

広報紙一番の読者が学校の関係者なので、そこまで詳しい見出しをつけなくてもわかってもいいですが、地域の情報誌としての役割もありますので、地域の皆さんにも読んでもらい、学校のことを知ってもらうために見出しを工夫してください。

小学校の広報紙は、皆レベルが高くなっています。今回、吹

今治市教育委員会学校教育課 秋山 徹也

どの学校の広報紙も質が高く甲乙つけがたく、頭を悩ませ、同時に各校の広報紙の皆さんを中心とした広報紙の作成について本当に頭が下がっている感じがしました。それは、子供のためとかPTA活動に対するそれぞれの熱い思い入れがあり、本当はこうしたいんだけれども、でも...といったご苦労された所が紙面からにじみ出てとれたからです。

実際の作成の場面では、やはり、それぞれの思い、児童生徒の生き生きとした表情や様子を保護者に伝え、学校やPTAの活動を広く伝え、それぞれの活動を活性化したい、昨年度よりも保護者のニーズに合わせたといった気持ちがある。これを進めたい、予算や日程といった制約があるといったことにもかわらず、このようにすばらしい広報紙が多数寄せられ、各校が「チーム学校」としてしっかりと機能していること、「チーム今治」としてのPTA活動が、これまでにも増して充実してきていることであると感じました。

今後とも、より充実したPTA活動が行われるよう、ともに手を携えて参ります。

今治教育推進協議会 副会長 清水 邦彦

全体的に読みやすい広報紙になったと思います。読みやすく読み応えのある広報紙、各地域の活動について良くまとめているのが写真の配置にひと工夫あれば良かった広報紙、アンケートの結果が中心でもう少しPTAとしての意見入れるなどして深く掘り下げ読みやすくなるような良い広報紙、もうちょっとPTA組織活動について紹介して欲しい広報紙、去年に比べ格段に進歩して読みやすくなった広報紙がありました。

総評として、私が市PTAに在籍していた頃に比べ、どの広報紙もうまくまとめられ、写真も選んで工夫され、審査をするのは難しく、微妙な差で点差をつけるのは苦しかった。広報紙をつくるのに関わられた皆さんに感謝します。

PTAが発行するのだから、校長先生の挨拶をトップにしなくてよい。行事の多い二学期に敢えて企画を持つてくるといった、世の中の流れをとり入れた紙面づくりに期待しています。



皆様のご協力のもと、「輝くひとみ第20号」を発行することができました。この場をおかりして、厚くお礼申し上げます。さて、先日開催させていただきました広報紙コンクールの受賞校の皆様、おめでとうございます!また、惜しくも入賞できなかった各校の皆様もご参加いただき、大変ありがとうございました。どの学校が受賞してもおかしくない程、素晴らしい広報紙ばかりでした。また、情報交換会では各学校の方々にお忙しいところお集まりいただき、ありがとうございました。剣道を通じて子育てや各単Pの運営に役立つ事が多々あったと思います。今後も単Pの皆様のお役に立つ会を色々と開催していきますので、どうぞよろしくお願いいたします。最後になりましたが、今治市PTA連合会ではホームページを開設しております。過去の「輝くひとみ」や各種申請書類等のダウンロード、また、輝くひとみに掲載しきれない情報も随時更新しておりますので、是非ご覧ください。1年間、本当にありがとうございました。

今治市PTA 連合会 <http://www.imabaricity-pta.jp/main.html>

